

恵那市情報ネットワーク「Ena'T-Club」の5年間

駒宮博男

Ena'T-Club 運営部会長

恵那市は、1997年、市民に対して無料でのインターネット回線提供を開始した。当初23回線だった回線数は、2000年6月には138回線となり、利用者は現在約4,100名（2001年2月）、今尚月100名のペースで増えつづけている。

市の回線の無料提供に伴い設立された市民ボランティア組織「Ena'T-Club」は、この5年間、インターネットの普及、接続サービス等を行っている。

今後もダイヤルアップ接続の利用者は増えるであろうが、より速く太い回線への願望が日増しに強まっているのも事実である。CATV,ADSL等々、これからのIT環境の急速な変化を考えたとき、ダイヤルアップ接続（電話線）に固執せず、新たなインフラへの転換を迫られる岐路に立たされているとあってよいだろう。

Five years of "Ena'T-Club", Ena-city information network

Hiroo Komamiya

Director, Ena'T-Club

Ena city office is one of the few city office in Japan which has been started internet provider, that has been free, it means no charge, for citizen.

A volunteer group called "Ena'T-Club" has been made by citizen for the first to direct and help the members who are going to use the internet infrastructure made by Ena city office.

Now the number of members is coming over 4,100, and the number of lines has been grown from 23 to 138.

The number of households in Ena is about 10,000. So the percentage of using internet in family is more than 40%. The number of members has been increasing more than 100 per month. So it is clear that in this year the percentage of using internet in family will be more than 50%.

恵那市の概要

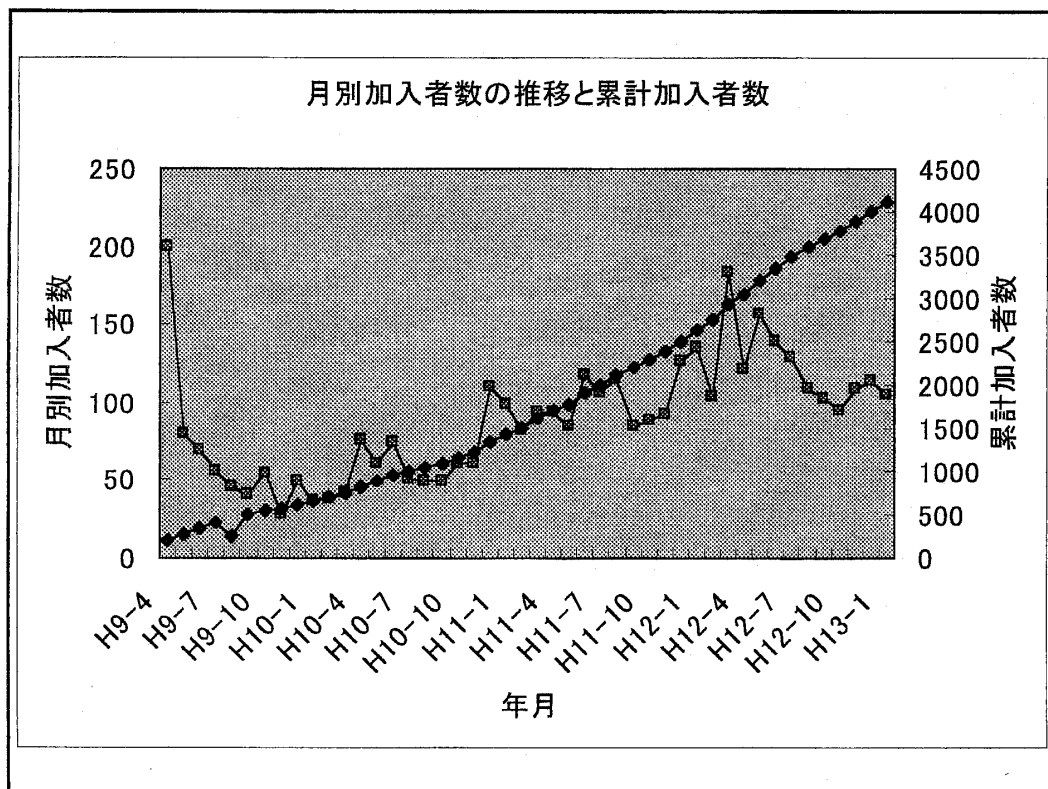
- ・人口 : 35,000人
(ここ数年殆ど増減無し)
- ・主要地場産業 : 公共事業?
- ・土地利用 : 山林が市全体の2/3
- ・交通アクセス : 名古屋中心部へ45分
中央道恵那IC

- * 要するに、全国に無数にある典型的な中山間都市
- * 中心市街地と周辺部とのメンタリティーには大きな差がある
(政治的には日本の縮図か?)

1. Ena'T-Club の概要

1) クラブの沿革

- 1996 恵那市情報化推進研究会発足
(1999より、恵那市情報化推進委員会に昇格)
- 1996/11 恵那市情報ネットワーク「Ena'T」試験運用開始
- 1996/04 Ena'T-Club 発足
- 2001/02 加入者数 4,100人



2) 発足の経緯

- ・市内小中学校にインターネット導入
 学校ごとのプロバイダー契約 → 高額、マンパワー不足で対応不能
 市がプロバイダーとなり各学校に配信 → 23回線のあまり
 → 市民に無料提供
- ・無料解放の23回線を管理する市民ボランティア組織が必要
 「無料」を正当化するための苦肉の策？
 → いわゆる「行政の保管機能」としてクラブが誕生
- ・発足当時の状況
 民間プロバイダーからの非難
 マスメディアの非難
 その後のNTT「OCN」等、低価格接続サービスの出現で非難は沈静化

3) 行政としてのスタンス

- ・「インフラ整備」は公共がやってもおかしくない。
- ・「道路」と同じイメージ
道は公共が作り、商店街、住宅地等は民間が作る
交通量が増えれば（利用者が多くなれば）道幅を
広くする（回線数を増やす）
当初の 23 回線から、現在の 138 回線

2. Ena'T-Club の現状

- 1) 回線 : ダイヤルアップ 138 回線
(現状ではキャパシティーオーバーなし)
- 2) 加入者数 : 4,100 人
(2001/02 現在、月平均 100 名新規加入)
恵那市の世帯数約 10,000 → 世帯加入率 4 割強
- 3) 上位回線 : NTT-OCN (1.5M)

3. Ena'T-Club のこれまでの主な活動

1) ボランティアとしての活動

- ・ 月1回の技術相談会、接続サービス（出張あり）
- ・ 聴覚障害者、母子寡婦会、シニア、ジュニア等を対象とした技術講習
- ・ ラーオンス、ロータリー等技術講習
- ・ 災害支援バザー

2) その他の活動

- ・ アニバーサリーイベント：毎年春、総会を兼ねて
- ・ 運営委員会：組織の最高決定機関（毎月第2土曜）
- ・ 市工業展、市文化祭等への出展

3) 組織、会費その他

- ・ 組織：正副会長、運営部会、広報部会、技術部会、育成部会、会計、監査
- ・ 会費：無料、ただし、任意で協力金（年1,000円、納入率1/3?）
- ・ 補助金：県、旧郵政省等

4. Ena'T-Club の今後

- 1) ダイアルアップでどこまで対応できるか
 - ・「ISDN」に対する不満（64Kではスピード感なし）
 - ・見え始めたインフラとしての最終形態
マルチメディア対応可能な高速回線網の必然性と必要性
 - ・近隣市町村の動き
 - 中津川市 : 全戸に光ファイバー網？
 - 山岡町 : CATV
 - ・都市部の動き
CATV普及率の上昇、ADSL
 - ・結局、電話回線は「髪の毛」か？
太い回線への強い願望
 - ・今後への模索
CATV、共同アンテナ有線テレビ
(同軸ケーブル有効利用) 等

- 2) フレッツへの対応
 - ・安い回線への強い願望
 - ・第2種通信事業者登録の可能性
- 3) 長期的には、「インフラ」でなく「コンテンツ」
 - ・我が国のインターネット環境 :
「情報のごみ箱」
(ほぼ5年前のアメリカと同じ状況か?)

5. 「リージョナル・マスメディア」としての可能性

1) E-commerce か地域経済か？

- ・「グローバルな時代＝リージョナルな時代」
- ・教育、医療、福祉、(衣食住)：地域に根ざした消費行為
自宅から半径 15 マイルで 70%以上の消費行為 (アメリカ)
- ・生産者、サービスプロバイダーの「顔が見える」経済への欲求
情報の責任性、信憑性 → 商品の信頼性
- ・地域内で、3Cを如何に構築するか。
contents：メディアとしての質の高い contents の提供
commerce：新聞の折り込み広告から HP へ
community：地域、ジェネレーション、性別、文化嗜好等々に対応
- ・新たなメディアとしての方向性
「専制的」メディア支配からの脱却：「市民がマイクを持つ」時代

2) NPO 法人化という方向性

- ・企業+役所中心社会からの脱皮
- ・NPO 認知度の急速な上昇

3) 緊急課題「平成 12 年度補正予算『IT 講習会』を市民の手で！！

- ・恵那市：1,500 人分 (一人 12 時間、講習会回数延べ 450 回)
予算額 1,500 万円強
- ・市民による「IT 講習」の意義
グラスルーツの講師発掘 → 単年度ではなく継続的に長期対応可能
→ IT リテラシー向上の基盤を地域に作る
地方の小都市ならでの community 対応
(大都市では、恐らく対応不能)

